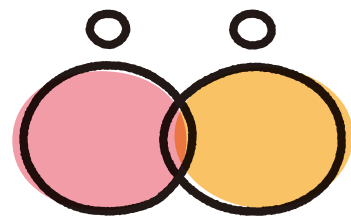


人と人がつながるカタチを描きました。
一人ひとりの支えあう気持ちが重なりあって、
もっと大きなチカラが生まれるといいな
という意味をこめて



今できること
プロジェクト

お申し込み・お問い合わせ



河北新報社

●営業局営業部

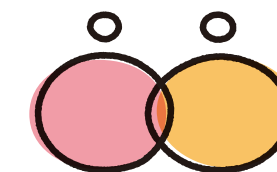
〒980-8660 仙台市青葉区五橋1-2-28
TEL 022-211-1318 FAX 022-227-0923

●東京支社営業部

〒105-0004 東京都港区新橋5-13-1新橋菊栄ビル7F
TEL 03-6435-8401 FAX 03-6435-8406

●大阪支社営業部

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-1-23
TEL 06-6227-1051 FAX 06-6227-1060



今できること
プロジェクト

2024-2025

学び直しと伝承

2024年度

賛同企業募集
企画書

命を守る教訓をつなぎ
地域再生の確かな脈動を。



河北新報社

2024年7月

1

中学生に託す伝承のバトン



中学生が被災地の今をレポート 「震災伝承新聞」

東日本大震災の発生から年月が経過し、当時の記憶が薄れつつあります。震災前後に生まれた中学生の世代では、全く記憶が無いというケースがもはや圧倒的です。来たるべき大災害から一人でも多くの命を守るためには、記憶の風化を防ぎ、若い世代へ教訓を継承していくことが必要不可欠です。教訓の若き担い手である中学生たちに、宮城県内各地の被災地を視察してもらい、十代の目線から震災の事実と向き合う取り組みを2020年から実施。いずれも大いに反響を集めました。

事前にオリエンテーションを行い、予備知識を備えて被災地を訪問。現地の語り部や追悼施設、震災遺構、復興めざましい地域などで学びを深めながら、肌で感じて実感を得る視察を実施します。その後、ワークショップでそれぞれの考えをまとめ、中学生自身が伝えたい東日本大震災についての記事を作成してもらいます。それをブラケット判4か面にまとめた特集紙面「震災伝承新聞」を、宮城県内外の中学校や災害伝承施設へ合計8万部を配布します。



そして、これから、ともに。

地域の未来のために 河北新報社が考える 企業・団体、読者参加型のプログラム 復興の歩みを振り返り 地域の今を見つめなおすプロジェクト

「今できることプロジェクト」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災からの懸命な復旧・復興の取り組みの中で「今、私たちにできることはなんだろう?」という問いかけから2012年に始動しました。これまで、多くの企業・団体の皆さま、読者の皆さまから共感をいただいて、幅広い活動を展開してきました。

発災から14年目の本年度は、被災地に寄り添って伴走するプロジェクトの原点はそのままに、被災地の復興への営みを学び直し、次世代に震災の記憶と教訓を伝える活動に注力します。賛同企業・団体と読者に参加を呼び掛けるバスツアーは、被災した大川小学校で妹を失った映像作家の映画上映会と現地訪問(12月中旬予定)、BCP(事業継続計画)の観点で仙台港・蒲生エリアなどを訪ねる企画(2025年1月予定)の2コースを用意しました。中学生が宮城県内の被災地3か所取材して記事にまとめる「震災伝承新聞」も発行します。

転勤や就職、進学などで震災後に宮城県内で生活を始めた、震災と復興を改めて学びたい、震災の伝承活動を支援したい。そうした皆さまに向けた、被災地の新聞社だからできるプログラムです。ぜひ趣旨にご賛同いただき、活動にもご参加いただけますと幸いです。変わらぬご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでの詳しい活動の記録は
こちらからご覧いただけます。

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>



参加予定の中学校

- 聖ウルスラ学院英智小・中学校
- 仙台市立五橋中学校
- 仙台市立三条中学校

企画展開 スケジュール (予定)

2024年8月～9月
2024年11月下旬
2025年2月11日
2025年3月下旬

視察予定の被災地

- 南三陸町
- 山元町
- 松島町

被災地視察
視察レポート特集紙面掲載
震災伝承新聞発行
校内発表会レポート特集紙面掲載



2

石巻・大川小を知り、「未来を拓く」上映会ツアー



「春をかさねて」(2019 / 劇映画 / 45分)
@Sonomi Sato



「あなたの瞳に話せたら」(2019 / ドキュメンタリー / 29分)
@Sonomi Sato



提供: 石巻市

悲しみを乗り越えて故郷を描いた
若き映像作家に思いを重ねて。

東日本大震災による大津波で、児童74人、教員10人が犠牲となった「石巻市立大川小学校」。当時小6の妹を亡くした佐藤そのみさんは、震災の4年後に日本大学芸術学部映画学科へ進学しました。在学中に、震災をテーマにした映画を制作。このツアーでは震災直後の大川地区を舞台に多感な14歳の心境を描いた劇映画「春をかさねて」と、家族や友人を大川小で失った同世代の震災から8年半を経た姿を当事者の目線で追ったドキュメンタリー「あなたの瞳に話せたら」を上映。理解を深めるため、北上川河口から3.7km内陸に位置する「石巻市震災遺構大川小学校」を訪れます。上映会場となる津波火災の痕跡を唯一残す「石巻市震災遺構門脇小学校」も見学。垂直避難の危うさを知ること津波への確かな備えとします。

企画展開
スケジュール
(予定)

2024年11月中旬
2024年12月中旬
2025年1月下旬

参加募集スタート
上映ツアー実施
上映ツアー採録紙面掲載

賛同企業様へ 賛同企業様からの参加も歓迎

石巻・大川小を知り、「未来を拓く」上映会ツアーの趣旨に賛同し、公募で選ばれた河北新報読者と一緒にいただける賛同企業の参加者を募集いたします。

映像作家 佐藤そのみさん

1996年生まれ、石巻市出身。幼少期に映画を作ることを志す。2011年の東日本大震災で、石巻市立大川小学校に通っていた2歳下の妹を亡くす。日本大学芸術学部映画科在学中に、石巻市で数本の劇映画やドキュメンタリーを自主制作する。現在は東京在住。

石巻市震災遺構大川小学校

東日本大震災をめぐる事象と教訓を後世に伝え継ぐため、甚大な被害を受けた石巻市立大川小学校を整備し、震災遺構として公開。伝承館では、震災前後の航空写真や地域模型、実物資料を展示しているほか、校舎の内部写真や裁判記録を閲覧することができます。

<https://www.ishinomakiikou.net/>

3

仙台・沿岸部で「備え」を学ぶ

賛同企業の
参加を募集

BCP(事業継続計画)の観点で
復興の歩みを振り返る。

東日本大震災では、物流の途絶により、生活物資の入手が宮城県全域で困難となりました。県下48店舗(当時)を展開する「みやぎ生協」も沿岸部など14店舗に大きな被害が発生。全国からの支援を受け、数量限定の店頭販売や救援物資輸送、ボランティアセンターの開設など、多方面で被災した県民の暮らしを支えました。当ツアーでは泉区「みやぎ生協東日本大震災学習・資料室」を訪れ、豊富な展示・映像資料などから備えの大切さを学びます。

仙台で発生する汚水の70%を処理する宮城野区「南蒲生浄化センター」も10m超の津波で基幹終末処理場が完全に機能を停止。完全復旧するまで5年以上の月日を要しました。ツアーでは当時の状況を伝える映像資料や講話、津波の威力で壁面が湾曲した第3ポンプ場などを見学。災害に強く、環境にも配慮した未来志向のインフラ施設ほか、仙台港エリアで生産を再開したビール工場も訪れ、それぞれのBCP事例から理解を深めます。

企画展開
スケジュール
(予定)

2024年12月上旬
2025年1月中旬
2025年2月中旬

参加募集スタート
視察ツアー実施
視察ツアー採録紙面掲載

賛同企業様へ 賛同企業様からの参加も歓迎

仙台・沿岸部で「備え」を学ぶツアーの趣旨に賛同し、公募で選ばれた河北新報読者と一緒にいただける賛同企業の参加者を募集いたします。

南蒲生浄化センター

震災による津波で壊滅的な被害を受けましたが、2016年9月に復旧工事が完了。施設見学では、センターの役割や機能を知るだけでなく、映像資料「3.11の記録・証言」や被災当時のまま残る第三ポンプ場などから、震災被害の凄まじさを知ることができます。

<https://www.city.sendai.jp/soshikikanri/shise/gaiyo/soshiki/141/159.html>

みやぎ生協 東日本大震災学習・資料室

みやぎ生協が、震災に際して取り組んだことを後世に伝える責務があると考えて設置した学習施設。テーマごとに豊富な資料を展示しており、震災関連の書籍やDVDなども閲覧可能です。河北新報が発行した発災当日の号外、翌日以降の新聞を日を追って読むことができます。

https://www.miyagi.coop/outline/shien/study_data/

紙面展開

このプロジェクトに協力してくださる賛同企業様のために、ツアーの一般参加者を募る募集告知(全7段)や活動内容を伝えるレポート(全15段)ほか、さまざまな紙面展開をご用意しています。賛同企業様の社名やロゴの紙面掲載をはじめ、ディスプレイ広告や記事体広告など、ご要望に合わせてご案内いたします。

プロジェクト告知(社名ロゴ連合)

- 2024年10月～2025年3月まで
- 朝刊カラー全5段
(タテ169mm×ヨコ381mm)

賛同企業
ロゴを月1回
掲出



今できること
プロジェクト
2024-2025 学び直しと伝承

私たちは賛同企業も、再生と伝承のために「今できること」をともに考え、このプロジェクトに賛同し推進していきます。

全国・朝刊
河北新報社
営業所(今できることプロジェクト事務局)



賛同企業フリースペース

- 2024年10月～2025年3月まで①、②のいずれかを1回掲載

①記事体広告…被災地支援活動の取材記事(朝刊モノクロ3段1/2)

※毎月下旬、賛同企業被災支援活動の取材記事として、複数社とりまとめて掲載します。ご希望の掲載月をご連絡ください。

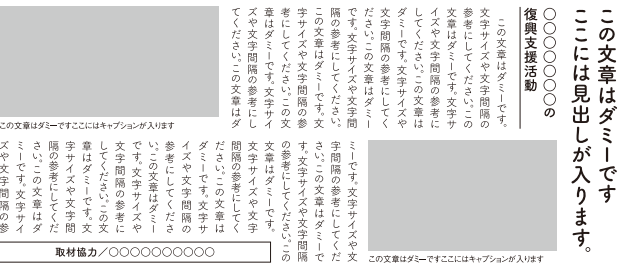
②ディスプレイ広告…朝刊カラー4段1/4相当 カット付きフリースペース

※ご希望の掲載日をお知らせください。



今できること
プロジェクト
2024-2025 学び直しと伝承

「今できることプロジェクト」賛同企業の被災地支援活動、復興支援活動などを紹介します。
(お問い合わせ先)今できることプロジェクト事務局/河北新報社営業部 tel: 022-211-1318



この文章はダミーです。ここにはキャプションが入ります

①記事体広告…モノクロ3段1/2

貴社の被災地支援活動に関する取り組みを取材します。

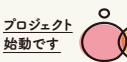
◎写真/2点まで

プロジェクト掲載紙面

- 2024年10月1日から(予定)
- 朝刊カラー全15段、全7段 など

スタート紙面

紙面に
賛同企業名
掲出



今できること
プロジェクト
2024-2025 学び直しと伝承

命を守る教訓をつなぎ、地域再生の確かな脈動を。



1 福島相双地域の今を知り未来を思うツアー



2 震災を知らない中学生に託す伝承のバトン



3 仙台沿岸の現在地に触れ未来と出会うツアー

河北新報社が考える被災地支援プロジェクトは、地域の可能性を発信し、記憶を継承する取り組みへ。

賛同企業名

※昨年度の紙面です。

ホームページとSNS

今できることプロジェクト オフィシャルホームページ

<https://www.kahoku.co.jp/imadeki/>

河北新報読者だけでなく 広く活動内容を発信



今できることプロジェクト Facebook

<https://www.facebook.com/imadeki/>

記事と連動しながら 賛同者と情報共有



ご賛同料金について

お申し込み締切 2024年9月13日(金)

※プロジェクト期間途中からの参加も可能でございますが、賛同料金については同額になります。

基本プランA

300,000円(税別)

- ① 各回特集紙面に企業名表記
- ② 毎月1回、朝刊カラー全5段で企業ロゴ掲載(2024年10月～2025年3月)
- ③ 被災地支援活動を取材(素材提供も可)し、朝刊記事体モノクロ3段1/2を1回掲載
※被災地支援活動以外の原稿を掲載希望の場合、朝刊カラー4段1/4相当を1回掲載
- ④ 特設webサイト内で企業ロゴ掲載およびリンク設置
- ⑤ 「石巻・大川小を知り『未来を拓く』上映会ツアー」への参加権利(2名まで)
- ⑥ 「仙台・沿岸部で『備え』を学ぶ」視察ツアーへの参加権利(3名まで)
- ⑦ 次世代参加型プログラムで中学生が作成した「震災伝承新聞」に企業ロゴ表記

新聞広告追加プラン

オプションプランB(カラー全5段)

1,700,000円(税別)

プランAの①～⑦に加え、

⑧朝刊カラー全5段(税別定価1,985,000円)の掲載(1回) 掲載期間/ 2024年9月～2025年3月

※ご希望の掲載日をお知らせください。(日幅をいただく場合がございます)

オプションプランC(カラー全15段)

3,600,000円(税別)

プランAの①～⑦に加え、

⑧朝刊カラー全15段(税別定価4,250,000円)の掲載(1回) 掲載期間/ 2024年9月～2025年3月

※ご希望の掲載日をお知らせください。(日幅をいただく場合がございます)

東日本大震災発生時からの取り組みをまとめておきたい、新たなフェーズとしてどのような取り組みをしたら良いのか、企業研修として被災地へ訪問を考えたい、など東日本大震災支援関連でのお困りごとなどございましたらご遠慮なく当プロジェクト事務局にお問い合わせください。